

木造薬師如来坐像

Wooden Statue of Seated Yakushi Nyorai



西光寺は731年、行基（668～749年）による創建と伝わる。昭和時代（1926～1989）に入りお堂が老朽化して取り壊された後、1967年に畑市地区の中央に収蔵庫を建て、薬師如来像と四天王像ほかを移した。現在は14軒の地域住民によって大切に守られている。

本尊の薬師如来坐像は、左膝上の掌に薬壺をのせ、右掌を前方に向けて立たせ、左足を外に結跏趺坐する形をとる。大きい髪部、鎬立たせた眉、顎を突き出したように見える頭部の深い奥行きに特色があり、体躯の量感に対して柔和な表情と衣文が印象的である。頭部と胴部からは、如何にも一木彫り像らしい力強さが感じられる。

膝と両腕は寄せ木造り。桂材を用い、背面より内部をくりぬき（内刳り）、肩や背中など三段にわたって蓋板を被せている。眉、目を除き彩色は失われ、全て素地を露わにしている。平安時代（794～1185年）。像高157.5cm。



西日本広域観光連携文化財活用丹波篠山推進協議会

兵庫県神戸市中央区東川崎町1-3-2 JR西日本神戸支社5階
TEL 078-371-2810

木造増長天立像

Wooden Statue of Standing Zochoten



西光寺の本尊（木造薬師如来坐像）に随侍する四天王像のうち、3 軀が国指定重要文化財となっている（木造広目天立像は市指定文化財）。

増長天立像は右手に三鈷杵さんこしよを持ち、持国天立像は左手に戟げきを執り、多聞天立像は左手に宝塔、右手に戟を持ち、各々邪鬼を踏みつけて立つ。いずれも頭軀の幹部はヒノキの一木造りで両手をは寄り寄せている。足下の邪鬼の主要部も共彫りとしている。

増長・持国天立像は目鼻を中央部に寄せて静かな怒りをたたえるが、多聞天立像はこれと対照的に口を開けて怒りを露わにしている。

平安時代（794～1185 年）。像高：増長天立像 115 cm、持国天立像 116 cm、多聞天立像 116 cm。



西日本広域観光連携文化財活用丹波篠山推進協議会

兵庫県神戸市中央区東川崎町 1-3-2 JR西日本神戸支社5階

TEL 078-371-2810

木造持国天立像

Wooden Statue of Standing Jikokuten



西光寺の本尊（木造薬師如来坐像）に随侍する四天王像のうち、3 軀が国指定重要文化財となっている（木造広目天立像は市指定文化財）。

持国天立像は左手に戟^{げき}を執り、増長天立像は右手に三鈷杵^{さんこしよ}を持ち、多聞天立像は左手に宝塔、右手に戟を持ち、各々邪鬼を踏みつけて立つ。いずれも頭髻の幹部はヒノキの一木造りで両手を翺^はぎ寄せている。足下の邪鬼の主要部も共彫りとしている。

持国・増長天立像は目鼻を中央部に寄せて静かな怒りをたたえるが、多聞天立像はこれと対照的に口を開けて怒りを露わにしている。平安時代(794~1185年)。像高:持国天立像 116 cm、増長天立像 115 cm、多聞天立像 116 cm。



西日本広域観光連携文化財活用丹波篠山推進協議会

兵庫県神戸市中央区東川崎町 1-3-2 JR西日本神戸支社5階
TEL 078-371-2810

木造多聞天立像

Wooden Statue of Standing Tamonten



西光寺の本尊（木造薬師如来坐像）に随侍する四天王像のうち、3 軀が国指定重要文化財となっている（木造広目天立像は市指定文化財）。

多聞天立像は左手に宝塔、右手に戟げきを持ち、持国天立像は左手に戟を執り、増長天立像は右手に三鈷杵さんこしよを持ち、各々邪鬼を踏みつけて立つ。いずれも頭髻の幹部はヒノキの一木造りで両手を矧はぎ寄せている。足下の邪鬼の主要部も共彫りとしている。

持国・増長天立像は目鼻を中央部に寄せて静かな怒りをたたえるが、多聞天立像はこれと対照的に口を開けて怒りを露わにしている。他の2 軀と異なり、前楯が翻る表現も秀逸である。

平安時代(794~1185年)。像高：多聞天立像 116 cm、持国天立像 116 cm、増長天立像 115 cm。



西日本広域観光連携文化財活用丹波篠山推進協議会

兵庫県神戸市中央区東川崎町 1-3-2 JR西日本神戸支社5階

TEL 078-371-2810